

実践!

花嫁修業

夜のトロあま

親友ゴメン!
お前の妹
いただきます

理想のお嫁さんを目指して
昼も夜もえっちに励みます—!?



おおかわななね
大川七音

俺を『お兄ちゃん』
と呼ぶが、
実や義理の兄妹
ではない

単なるお隣同士
幼なじみだ

何だよ：
相談って

花嫁修業の
練習台に
なって



お兄ちゃん

相談が
あるんだけどっ！

今度は…

家事とかは
一通り
お兄ちゃん
で
試したから

この『お兄ちゃん』は
彼女の実の兄、
大川和彦^{かずひこ}を指す

俺と同じ年で、
いわゆる親友
だ

今度はその…
夜の花嫁修業
っていうか…
こんなことを
頼めるのは
お兄ちゃんしか
いないの
お願いっ！

七音の剣幕に負け、
俺は『花嫁修業』を
手伝うことにした

それじゃあ…
さっそく始めるね



えっ な、何を…

恥ずかしさに耐える修行よ

花嫁は花婿に全てを見せなければならぬの

だから下着くらい…

うっ…これは…

俺は気まずさに見線をつまみしめた



ちよっとお兄ちゃん！
しっっかりしてよっ！

私の下着、ちゃんと見てっ！

うん…



似合ってる…と思う

本当？よかった…

ホッ



胸…

けっこう大きいな

『夜の花嫁修業』のために奮発してきたのだからか

ブレースで飾られたブラジャーは、高級そうに見えた



下も見て…

フル…



ブラジャーと
合わせた
デザイン
布面積は
小さくて、
やや扇情的だ



うう…
ブラジャーも
強烈だったけど
下も…

：ちゃんと
見ないと
また怒られる
からな



……
私の下着姿
興奮した？



べ、
別に…
強がついて
しまうって



興奮しない
って言うの？

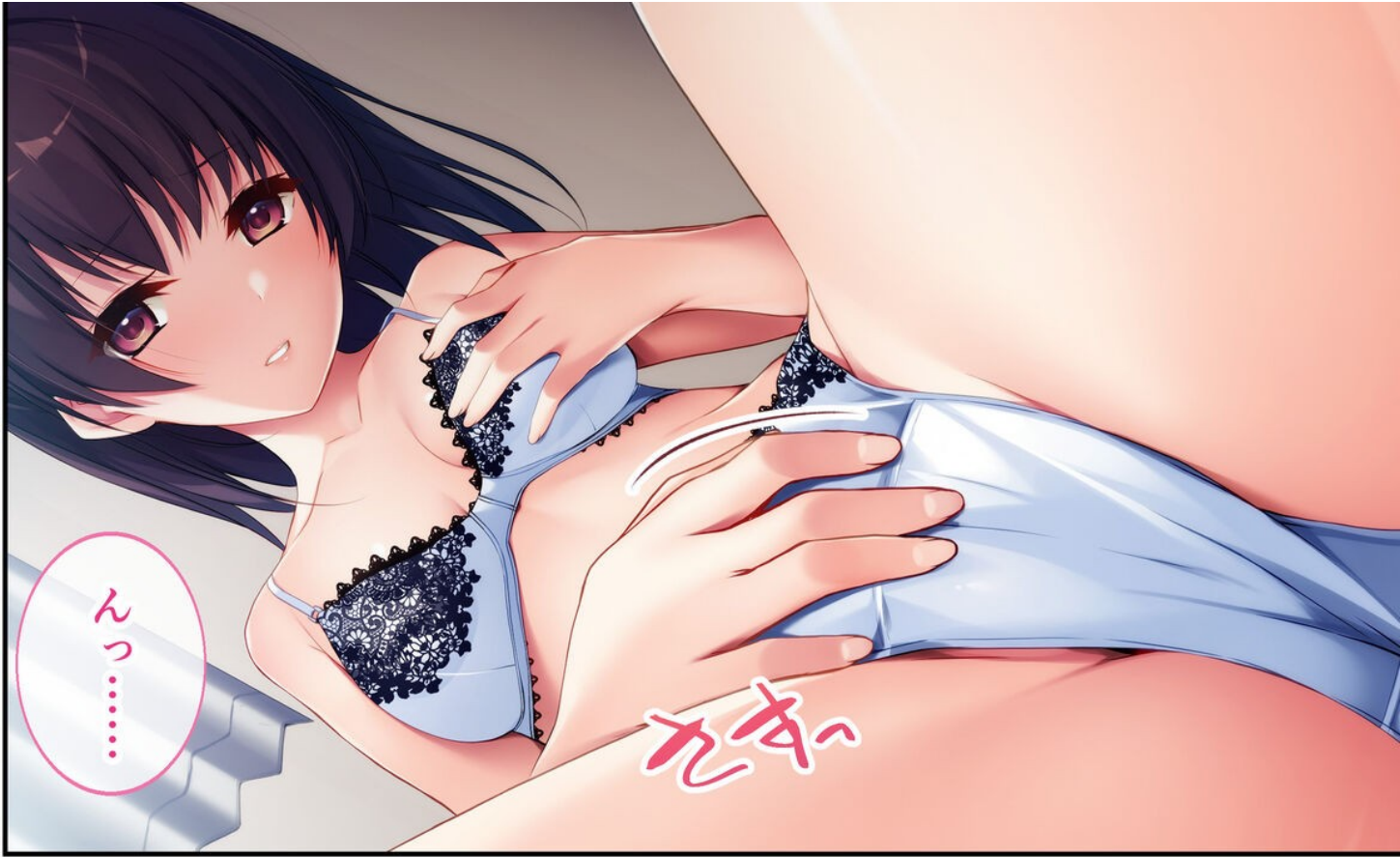


ちよ、
ちよっと
そんなに
じろじろ
見ないでよっ！

いや、でも
さっき…

私だっ
恥ずかしい
のっ！

それを
克服するための
『花嫁修業』だろ
だから…



んっ……

ええっ



恥ずかしく
なんかな……
だから……

んっ……
はあ……

はあ

そんなことを
言いながら
俺は七音の自慰に
見入っていた



女の部分を
自分で
刺激している

んんう……
んはあ……

すり

すり

……
あああ

なっ
何してん
だよっ!



花嫁修業
だから……

こんなことを
しても……

スルッ



これも……
花嫁修業
だから……



恥ずかしく
ないから
だから……

おおっ……

クチュミ



秘められた花肉が
あらわになる

これが……
女の子の……

俺のモノは、
ガチガチに
強ばっていた

チュプ

クチュ



んっ……
んあ……

んう……

もみ

感じて……
はあ……

はあ……

あっ



お兄ちゃん
の前で……

オ●ニー
して……

はあ……

んあ……
んあ……

七音の指先は
自身の花肉で
蠢き続け

ひくひくと
蜜汁を吐き出し
続けていた

クチュ

クチュ

クチュ



んあああ……
お兄ちゃん……
んっ……

ソクソク

ドクドク
ドクドク

んくう

ソクソク

ニャアアア



感じたり
なんか……
イクわけ
なんて……

はあ
はあ



お兄ちゃんの
前で……

ハモ

ヌキ

ハモハモ

……んああああ
あああああつ!!



下着姿の
恥ずかしさに
耐えたあとは――



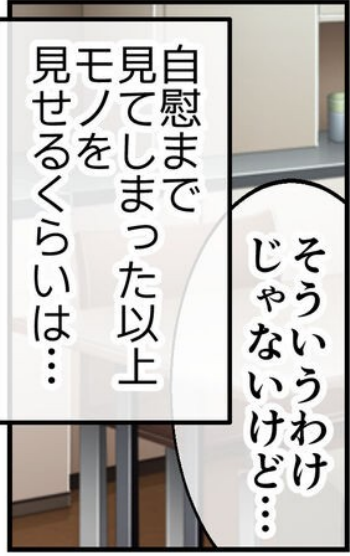
俺は痛いほど
勃起していた

あ、うん…
興奮したよ



どう…？

興奮したでしょ
私のオ●ニー…



自慰まで
見てしまった以上
モノを
見せるくらいは…

そういうわけ
じゃないけど…



私があそこを
見せたのにお兄ちゃん
自分のあれを
見せないつもり？



お兄ちゃん
あれを見せて

『あれ』って
……まさか



きつ
気持ちよく
してあげる……

わ
がわたし

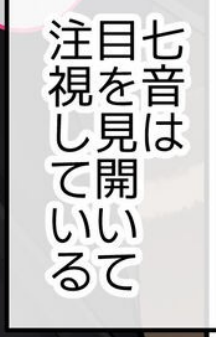


すっ
すごい……



これが
男の人の…
お兄ちゃん
のアレ……

こんなに大きくて…
…たくましくて…
怖いけれど…
これも花嫁修業
だから……



七音は
目を見開いて
注視している

恐る恐る
モノを握る七音

ごめん、
痛かった…？

いやッ
…気持ち
よくって

…ふっ

ぎゅ

うう…ッ

こうやって
握ってみると
見た目以上に
もって
すごい……

七音の
可愛らしい顔が
ほんのりと
紅潮している

べ、別に……
興奮とかして
ないんだから

こすって…
気持ちよく
してあげる

うっ……
くっ……
ううう…

あ
ん
ん

自信は
あるの
動画でばっちり
予習したから…

ぎゅ

痛かったら
言ったらね

花嫁修業だから、
仕方がなく
触ってるだけ
なんだからっ！

翌日――

聞いたぞ

大川和彦

俺の親友かつ、
七音の実の兄だ

部屋で七音と
二人きり
だったそうだな

べ、別に……
特に変わった話は
してないぞ

和彦は重度の
シスコンだ

昨日の出来事を
バカ正直に
言えるはずもない

……
くれぐれも
七音には
手を出すなよ

お、おう……

和彦も居るとき
七音は俺を
『田中先輩』と呼ぶ

今日の夕飯
何がいい？

私が作るよ

七音が
作ってくれる
のかあ……!!

あっ
お兄ちゃん

……と
たなか
田中先輩――

大川家の両親は
仕事で忙しく
家に居る姿を
あまり見なかった

おおっ！

どうした
七音ッ！

……ウチも
今日は
親が居ないん
だ

夕飯
どうしよう
かな――

ぐんぽーん

お兄ちゃんも
今日は
ひとりでしょ？

晩ごはん
作りに来たよ

七音

のいかい？

ウチの分はもう
作り終わったから

台所
借りるね

花嫁修業の
成果を
見せてあげる

田中家と大川家は
家族ぐるみで
付き合いがあり

七音が家の台所へ
入ることも
珍しくない

もちろん
夜の方も

……
何を作って
くれるんだ？

なっ

その
カッコ…!?

ふふん

新妻の定番、
裸エプロンよ

これ…
花嫁修業の
一環だから



七音…っ
もう
出そうだ…

んあ…
エプロン
に…
乳首…
こすれて…

いいよ
出してえ!

ひっ…
あぁ…
ひぁぁ…

うっ…
くううっ!
ブルル

べ、別に…
興奮とか
してないから
花嫁修業だから、
仕方なく
なんだからっ

あそこも、
うずうず
なんて…
してないん
だから…

お兄ちゃんのが
…背中…
背中…
ドロドロに
されちゃってる…
お兄ちゃんの
精●で…

ハッ

…ご飯の次は、
お風呂でしょっ！

コレも
洗わなきゃ
いけないし…

先に入ってて！

七音に
促されるまま
浴室に入り、

椅子に腰かけて
身体を
洗っているー

湯加減は
どう？

カ
ラ
ッ

七音ッ!?

背中、
流してあげる

タオル
じゃなくて

私の胸で…

これも…
花嫁には

ス
リ

必要なこと
だから…

う
う
う
う
ッ!

七音の胸が…
俺の背中に…!!

更にー

キョッ

うおッ!?

こっ、
こうすれば…

背中とあれを
同時に
洗えるでしょ…

んっ…
んっ…
んっ…

そ、
そうだな…

んっ…

勘違い
ないで
よねっ!

これも全部
修業のため
だからっ!

わかってるよ
『花嫁修業だから』
だろ

身体と腕を
同時に動かす奉仕は
難しいらしく、

七音は俺の身体で
ぎこちなく
練習を続ける

少しづつ、
上達して、
感じられた
いくのが

ゴシ

ゴシ

ゴシ

ゴシ

どう…？

最初より…
良くなったと…
思うけど…

よかった…

お兄ちゃんも
気持ち
良いんだ…

背中
乳首が
こすれて

気持ち
よくなつて

あそこ
まで
うず
うず
して
き
ち
や
う
な
ん
て…!!

んっ…

す
ご
く…
気
持
ち
い
い
よ

『も』？

ち
っ、
違
う
か
ら
う

別
に…
私
は
!!



ひ
や
っ
!

2
回
目
な
の
に
す
ご
い
勢
い…



う
う
う
く
っ
う
…

そ
ん
な
に
強
く
さ
れ
る
と
っ



そして翌日ー

和彦の帰りがと、遅くなるからと、

七音の部屋に呼ばれてしまった

お兄ちゃん

今日は…
舐めっこ…
…しない？

んんっ…
んんっ…
んんっ…

んんあ…
んんあ…
んんあ…

今日の七音はー

大人っぽい下着をまとっている

ー男を誘惑するための

はああっ
ああ…

これが…
お兄ちゃんの味…

はああ…
んんっ…

キューッ

あんっ…

これが…

七音のあそこ…

陰●を舐めたり
女穴へ舌を
差し込むたび、

七音は甘い喘ぎを
漏らしていく

彼女のそこは、
淫靡にひくつきながら
蜜を湧かせ続けた

気持ちいいっ！

お兄ちゃんに
してもらって…

そこお…
いい…

…あっ…
ああんっ…

肉芽は
ぷっくりと
ふくらみ、

包皮を剥けた
返らせていた

そこを唇で
ついばんでやるとー

はあああ!!
…あああ
…あんっ

そこは…
…んはあっ！

私も…

お兄ちゃんを
もつと気持ちよく
してあげないと…

自らの快楽に
駆り立て
られるように

七音の奉仕が
激しくなる

最後まで
…して

…かい
の？

七音が
そこまで言っ
てくれるなら…！！

俺も
初めてだけ
…がんばるよ

…初めて
だけど

お兄ちゃん
になら…

きて…
お兄ちゃん…！！

七音…！！

濡れそぼつた
秘所へ剛直を
あてがう

痛かったら
言うんだぞ

あんっ…
あううう…ツ！！

うん…っ
ううう…

ズグ…

それが
どれほの
痛みなの
か

俺には
想像もつかない



女の子なら、
誰でも一度は
経験する
ことだから…

平気だよ…

これで、
大人の女に…
花嫁に、一步
近づいたのね…



俺にできるのは、
ゆっくりと
慎重に動くこと
だけだった

くっ…
ううう…

んん
うう…っ!

ご、ごめん
大丈夫か?



動いて…
いいよ

私は、
大丈夫だから

…
わかった



顔を
しかめながらも
七音はどこか
誇らしそうに
つぶやいた

…よく
頑張ったな

偉そうに言う俺も、
『大人』に
なったばかりだ
達成感と高揚感で、
俺のモノは荒々しく
脈打っていた



くっ…

んんう…

ううう…

気持ちいい

んんう
はああ…

んっ…

気持ち
良すぎて

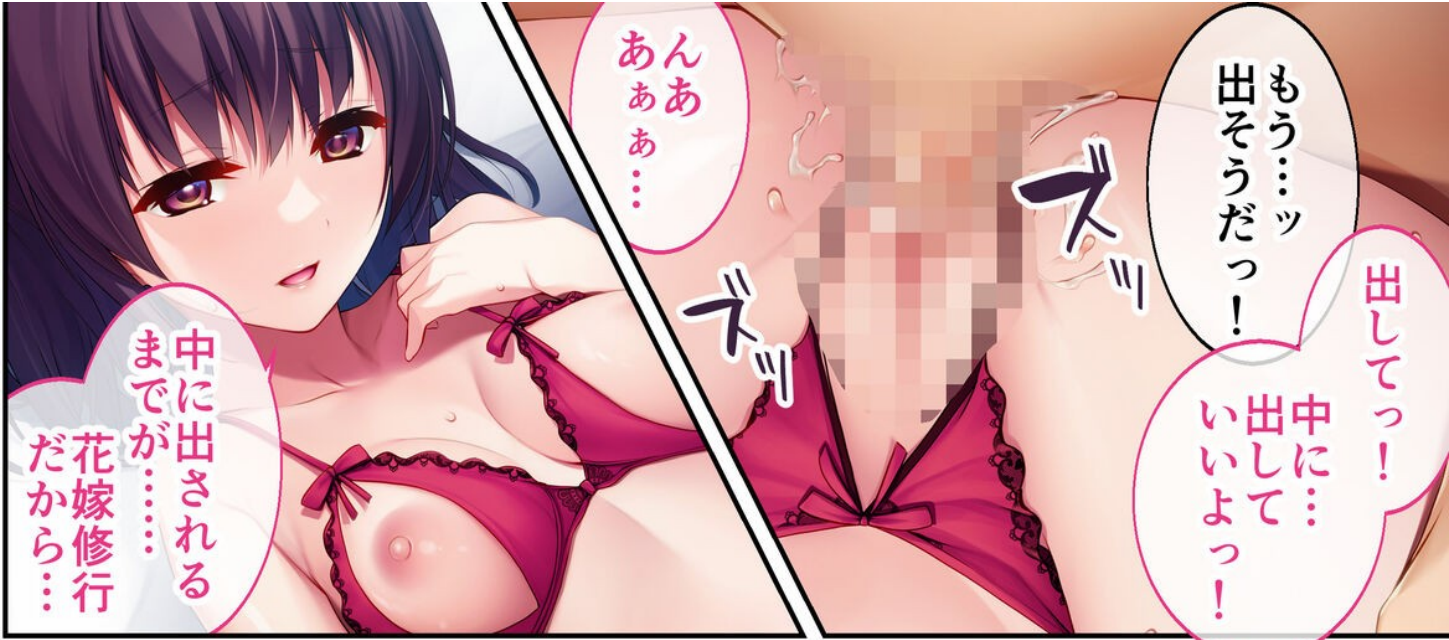
腰が
止まらない…!

んはああ
…

ズッ

ズッ

ズッ



んあ
ああ...

もう...ッ
出そうだった!

出してっ!
中に...
出して...
いいよっ!

中に出される
までが...
花嫁修行
だから...



ああ...
あっ...

ドク...
ドク

んんっ
!!

マッ



出して
くれたのね
お兄ちゃん...

これで...
また一歩

花嫁に
近づいたわ...

はあ...

剛直はなおも
脈動を続け、
七音の奥深くへと
白濁を注ぎ込み
続けていた—

翌日の
放課後—

本当に…
ここで
するのか？

お兄ちゃん
だって

興奮してるん
でしょ？

私も…興奮
しちゃってる
の……

早くしないと
誰か戻って
来ちゃうかも

そ、
そう
だな…

んっ…
んあぁ…

あああ…
…んううう

その言葉に
俺は腰づか
いたを、
激しく

あそこが…
気持ちい
いのお…

んんう…
あぁっ…

いいっ…!

はぁあ
んっ!

はぁあ
あっ…

もう少し…
激しくしても

大丈夫…
かも…

んはあ
あっ!!

お、おい
七音……

あまり
大きな声を
出すなよ……!

廊下まで
聞こえるだろ!

激しく
動いているのは
俺のだけだ

だって……

お兄ちゃんのが
気持ちよくて……

あああ……
んっ……

もっと……
……して……

わたし……

イケそう……
なの……

そんなことを
言われては、

俺の中の牡が
奮い立ってしまう

はんうう……
はああ……

あっ……
はあ……

ああっ

声を聞かれたら
まずい……
ハズなのに

もっと声を
上げさせたくなる

んんう
……!!



あああああ
あああああ
あつ!!



すごく
気持ち
よかつた...

はあああああ...
あああああ...
んあああつ!

これは廊下まで
聞こえてしまった
かもしれない

それほどの
大きさだった

教室で...
するの...
も...

...
いいかも...

七音...

それじゃあ…
場所を変えましょ

できる
でしょ？

えっ

まだ
やるのか？

それは、
まあ…

『花嫁修業』に
ぴったりな
ところがあるの

ここ、ここで
するのか…!!?

神様に
怒られそう
だけど…

大丈夫

神様は
男女の色恋には
大らかなものよ

そういう
ものか…？

んっ…
んうう…!!

ズ
ズ
ズ

お兄ちゃん…
『花嫁修業』
…しよ…



夫婦生活の
マンネリを
解消するの…

見られる
つかもしれない
つてスリルがい

んんっ…
んんう…



んああ…
はあ…
あ…
っ…
!!

…んっ…
…はあ…

あ、
あんまり
大声
出すなよ…



お兄ちゃん
だつて…
興奮してるん
でしょ…?

すごく
固くなつて、
びくびくつて
跳ねてる…

…ああ、
その通りだ



最初は…
こんな
大きいのに、
無理いつて
思っただけど…

今はあ…
んっ…

ああ…
はあ…

七音が
気持ちよくなつて
くれてるなら…

…俺も
嬉しいよ…

お兄ちゃん
のでっ…

いきそうっ!

いきそう…

あつ…
ああ…

いくつ…
いくつ…

うっ…
くっ…

んあああ
あああ
あつ!!

うん

うん
うん
うん

私たち…
外で…
しちゃったん
だね…

そう、
だな…

七音を絶頂に
導いたことで、

俺も男としての
自信を得ていたの

花嫁に
近づいたわ…

これで…
また一歩、

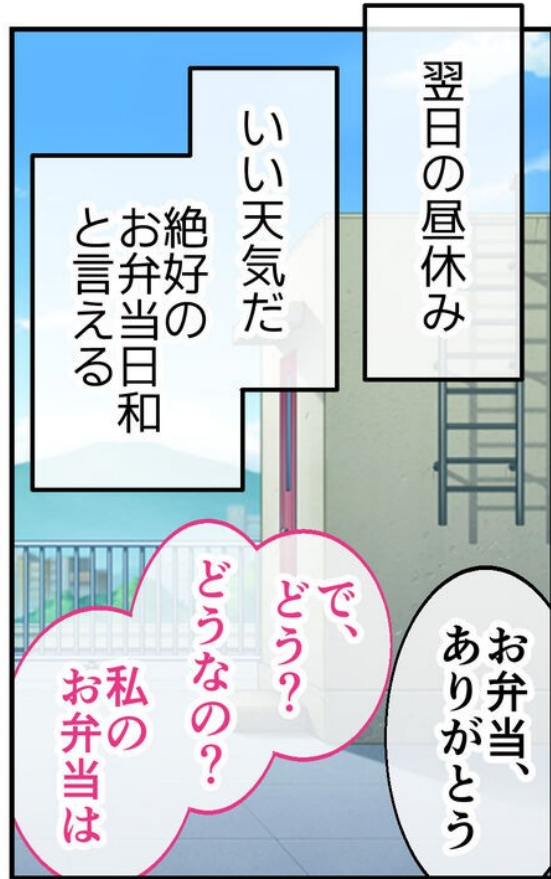


うん、
おいしいよ
きつちりと
基本を抑えている
感じがする

お昼の
『花嫁修業』も
きつちり
やってるんだから

ふふんっ！

当然よ



翌日の昼休み

いい天気だ

絶好の
お弁当日和
と言える

お弁当、
ありがとう

で、
どう？

どうなの？

私の
お弁当は



俺は空腹感に
突き動かされるがまま、
弁当箱を空にした

空腹が満たされると、
今度は眠気が襲ってくる

ごちそう
さま

思わず
あくびが出た

：膝枕、
あげよっか

えっ
いいの？

眠くなった花婿にも、
膝枕してあげるのも、
花嫁の役割だから

じゃあ、
ちよつと
失礼して…



いや、本当に
おいしいよ

作るの
大変だった
だろ？

べ、別に……
それほどでも



俺は身を横たえて
七香の太腿に
頭を乗せる

女の子の……
太腿……
これほど
嬉しいことは
ないっ!



お兄ちゃん、
何してるのよっ!

ちよ、
ちよっと、



……さつきまでは
本当に
眠かったのだがー



いやー、
膝枕して
もらったら
別の欲求が
湧いて
きちゃって……

も、もう……
お兄ちゃん
ったら
だから……

そう言う
七音は
されるがまま
手を払い
のけようとは
しなかつた

だつたら……



ちよつと
お兄ちゃん

こんな
ところで…

んう…

あ…

んっ

や、
やめてよ…



ひやつ!

ズボッ



スカートの中で
俺は欲望のままに
指先を蠢かせる

誰かに見られ
ちやったら…

大丈夫

誰か来たら
すぐに
止めるから



そこっ
はあ…

…濡れてきた
みたいだけど?

しよ、
でしょうがない
でしょ…

あんっ…

お兄ちゃんが、
いやらしいこと
してくるから…



だからって…
こんなところで…
んっ…

はああっ!
んっ…
んっ…

時には
上部の突起へ
指の腹を押し当て

くりくりと
こねまわしてやる

さす

さす

俺の指で、
感じてくれている

そのことが
嬉しくて、

すり

お兄ちゃん
に……

こんなこと、
されたら……

やっ……
んあっ……

俺は一層熱心に
七音の女唇を弄ぶ

はあ……
あっ……

はあ……
あっ……

んう……

んはああ
あああ……!!

ゲキョ

ゲキョ

ムク



べ、別に……
わたし、
イってない、
から……

……

お兄ちゃんに
悪戯されて、

イったり
なんて……

してないん
だから……!

それ
じゃあ

きちんと
イカせて
やらないとな

ちよ、
ちよつと、

お兄
ちゃんっ

……
恥ずかしい
よ……

……
こんなの

校庭から……
丸見え……だし

んっ……

うう……

俺の手は、
七音のお尻側から
スカートの中へ
もぐり込んでいる

花婿が
こういうの
好きかも
しれないだろ

これも立派な
『花嫁修業』だ

いや、単に俺が
好きただけだが

ああ……
恥ずかしい
よお……

七音だって、
感じてるんだろ？

布地の上から
突起を探り当て、

くりくりと
揉みまわしてやる

そこお……
いじられたら……

やああっ……

はああ……
あっ……

くり
くり

……声がいそう……
出ちがいそう……

んっ……
はああ……

あああ……

わたし……
もう……
もう……
いきそう……
いっちやいそう
なの……

びんびん

気持ち
よすぎて……

……んくう……
うっ……

……お兄ちゃん、
出してないでしょ

ファスナーが
壊れそうなほどに、
俺の局部は
制服のズボンを
突き上げていた

物陰でなら……
入れているよ……

せっかくだから
ここでして
もらおうかな

えっ

ここで……?

そんな……
見られちゃう……

心配するな

七音を後ろから
そつと抱きしめる

そつと——

ぐっ



...ううう...
んんっ...!!

ズブッ...



ほ、本当に...
大丈夫なの...!?

大丈夫



...ただし
七音が
いやらしい声を
出さなければ、な

.....
こんなことが
ばれたら...

私、明日から
学校に
来られないよ...

俺は和彦に
殺されるだろうな



もう少し
……動くぞ

あんっ……

そ、
そんなに……

お強く
されたら……

本当に
声がつ

声……
出ちゃう……!

んくっ……

ズッ

ズッ

ズッ



ズッ

ズッ

少し動くぞ

ちゃんと声
我慢しろよ

んっ……
んんう……

んはあ……



お兄ちゃんの……
……いいっ……

声……っ

出ちゃう
そう……!



校庭の運動部に、
七音の知り合いも
いるんじゃないか？

ひゃっ……!!

耳元で囁くと
七音の肩が、
小さく跳ね、

ナカも
ひくひく
ひくひく
締めつけ
強くなる
縮める
強くなる

ばば、
か……

恥ずかしいこと
……言わないでよ……

恥ずかしいけど、興奮するだろ？

…俺もそうなんだ

あっ……
ああ……

そんなに激しくされると……

わたし……
んん……

うう……

ゴッ

ゴッ

くっ……
んああ……

んはあああ
あああああっ!!

お兄ちゃんのが……
わたしの中に……

あそこの奥に……

こんなところでされたのに……

わたし……
イっちゃった……

ビュルルル

放課後、
俺の自室――

言われた通り……
着てきたよ……
お兄ちゃんって
こういうのが
好きなの……？

七音が
制服を脱ぐと、
体操着にブルマー
の姿になった

…花婿が
こういうの
好きかも
しれないだろ

俺の趣味
なのだ

そうだよな
見てるだけじゃ、
花嫁修業としては
不十分だよな

あっ……
あんまり
じつと
見ないで……

ううう……
なんだか……
恥ずかしいよ……

そうか
恥ずかしいか
こうすれば、
もっと
恥ずかしい
格好になるぞ

うわ

ひゃあああ
あああつ！

キユ

俺はむき出しになつた下着を掴み、

ぐいと
食い込ませた

こういうのが
好きな花婿だって、
絶対にいるはずだ

あ、あんまり
見ないでよ…

見るだけぞ
じゃないぞ

俺たちの
花嫁修行は
これからだっ

俺は左手を振り上げ
剥き出しにされた
七音の尻へー

んあ…っ！

大丈夫…
かな…？

当然ながら
加減はした

今回の
『花嫁修業』の
テーマはー

お仕置きだ

もう一度、
お尻に平手打ちする



どうだ？
お仕置きの
味は

はああああつ！

お尻も
痛いけど…

お尻と…
あそこに

下着が…
食い込んで…

お尻に集中して
もらったほうが
いいか…？

左手を動かして、
食い込んだ下着を
ゆるめたりしてやる

んはあああ…
あつ…

食い込んだ下着は
七音の前の花弁をも
擦り上げて
心地よい刺激を
与えているようだった

お仕置きの
最中に感じる
なんて
いやらしい
花嫁だ

お兄ちゃんが…
あそこに…
食い込ませるから



こんなに
いやらしい花嫁
追加の
お仕置きが
必要だな

んはあああ…
あつ…
お仕置き
されてる
のに…

わたくし…
んつ…

キユ

グ
グ

ひっ…
あぁあっ

んはあ
あぁあぁ…!!

グ
グ

んんう…
んあぁ…

くんう…
くっ…

わたし…

お兄ちゃんに
お仕置きして
もらって…

まさか、
お尻叩きで
イっちゃう
とはな

べべ、
別に…

いってなんか
ないからっ

だったら、
確かめさせて
もらおうか



こ、こんな格好……
恥ずかしいすぎるよ……
あそこも……
お尻も……
見えちゃってる……

でもこれも……
『花嫁修業』だから……

お尻叩きのお仕置きで濡らしてないか

じっくり調べてやる

んっ……
んあああ……



はあああ
ああああっ!!

ガッ

入れただけでも……
出してしまいそうだ……

俺のものは歓喜に打ち震えていた

うっ……
うう……

くっ……

……濡れてるな

べ、別に……
お尻叩きで濡れたわけじゃ

ズッ

んあああ……
ああ……

んはああ……

ズッ

『楽しみ』
っていうか……



お兄ちゃんに
してもらえるって
思ってた……

俺と
するの、

そんなに
楽しみにして
いたのか？

ズッ



ズッ

あっ……
あんっ……

……修業
だから……

そうよ、
花嫁修業
だからよ……



ズ
ク

ひっ……
あああ……
んああー

はああああ
あああああ
あつ!!

ズ
ク

ズ
ク

ズ
ク



それは、俺も……

今日の
こと……
体育着を
着るたび
思い出し
ちゃうかも……



あああ……
お兄ちゃん……
んっ……

どろろお……

んああ……
あつ……
はああ……



今後は
体操の女子を
見かけただけで
思い出して
勃起して
しまいそうだし
ましてや、
体操服の
七音なんて
目にしたらー



ブルマーで
興奮する花婿
……って、あり？

……どうしても、
って……
頼まれたら……

……着る

二十代後半に
なった七音が
ブルマーを
穿いている姿を
思い描いてー

俺は高ぶりを
覚えてしまう



振動を強めた淫具は、七音の秘所を容赦なく責め続ける

だが、女の部分はじつとりと濡れているだろう



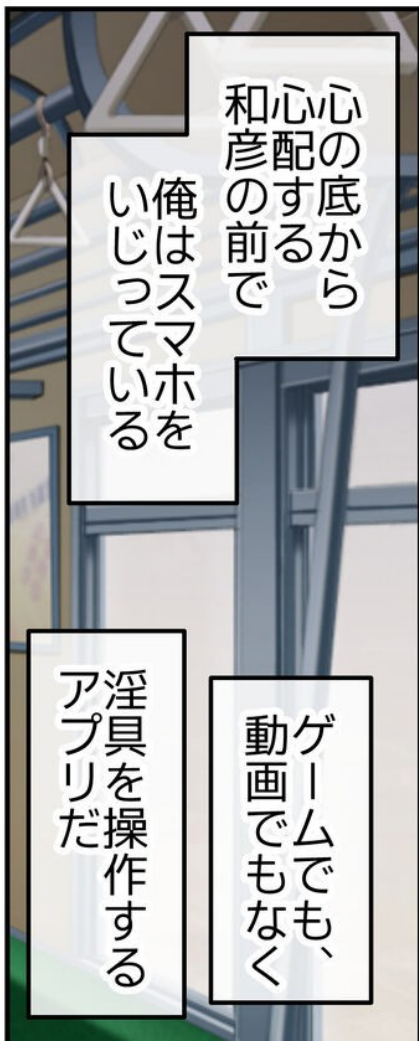
よく我慢しているな

：だからこそ、悪戯してやりたくなる

んうう……ッ！

うつむいた顔は紅潮しているもの、どうにか声を抑え、平静を装っていた

俺は振動を『強』にする



心の底から心配する和彦の前で

俺はスマホをいじっている

淫具を操作するアプリだ

ゲームでも、動画でもなく



どうした七音っ

具合でも悪いのか？

う、ううん……

ならば、いいんだが……無理するなよ

何でもない……

んあ……うっ……

んんう……んんはあ……

「弱」と「強」を
往復させる

そしてー

淫具の振動を
『最大』にする

グイ

んっ……!
んっ……!

こついうのも
いいな……

はふん……
あつ……

……ふん……んっ
うん……うん……!!

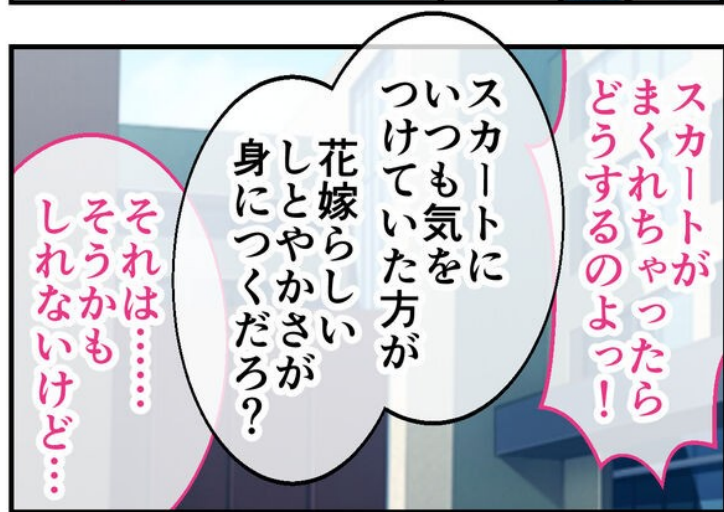
んっ……

んっ!!
……うっ……

……ッ

な、七音っ
本当に大丈夫か?
顔が赤いぞ……?

だ……大丈夫……
……だから……





そんなこと
言われても……

絶対に
見られたく
ないのだろ
う

『股間の異物』を

ブ

ブ

ブ



顔を赤らめた七音は
階段を上り下りする

その足取りは
どこかおぼつかない

んんっ……
んんう……

ううう……

スカートを
気にしすぎだ

怪しまれるぞ



……んはあ
あっ……

視線が……
あそこに……

また濡らして
いるんじゃない
だろうな？

お兄ちゃん
の……
いやらしい、
視線が……

……スカート
の中を、
みたく……

そ、
そんなわけ
ないでしょ……

んんっ……
んんあ……

あっ……

電車の
なかで
いかに
された
の……

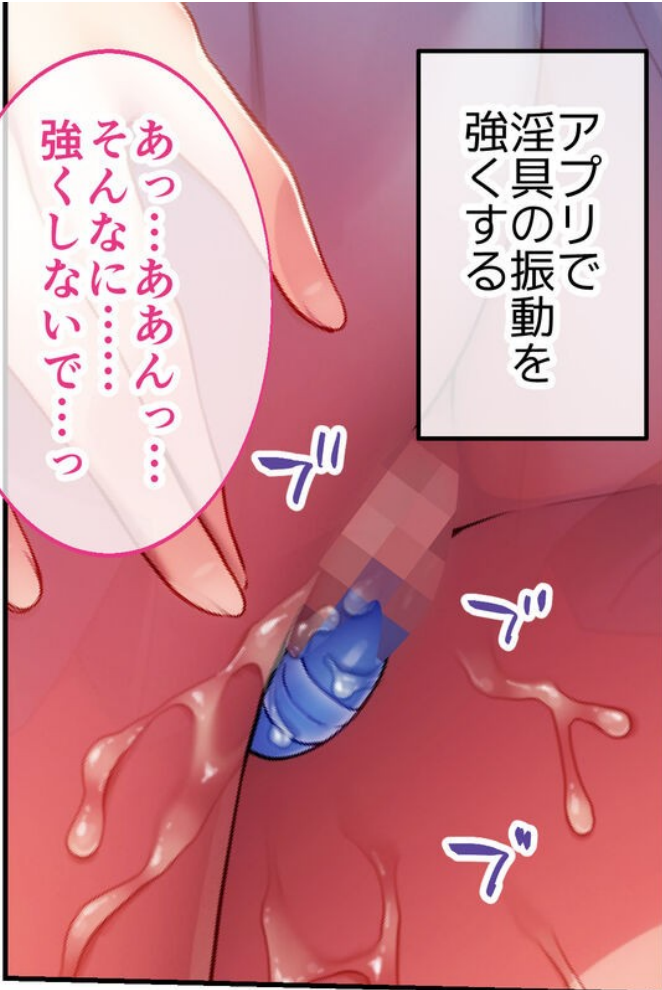
また……
気持ち
よく
な……



だったら、
調べてみるぞ

スカートをもくくってみる

いいやよ、
そんなのっ！



アプリで
淫具の振動を
強くする

あっ…ああんっ…
そんなに…
強くしないで…っ

ブ

ブ

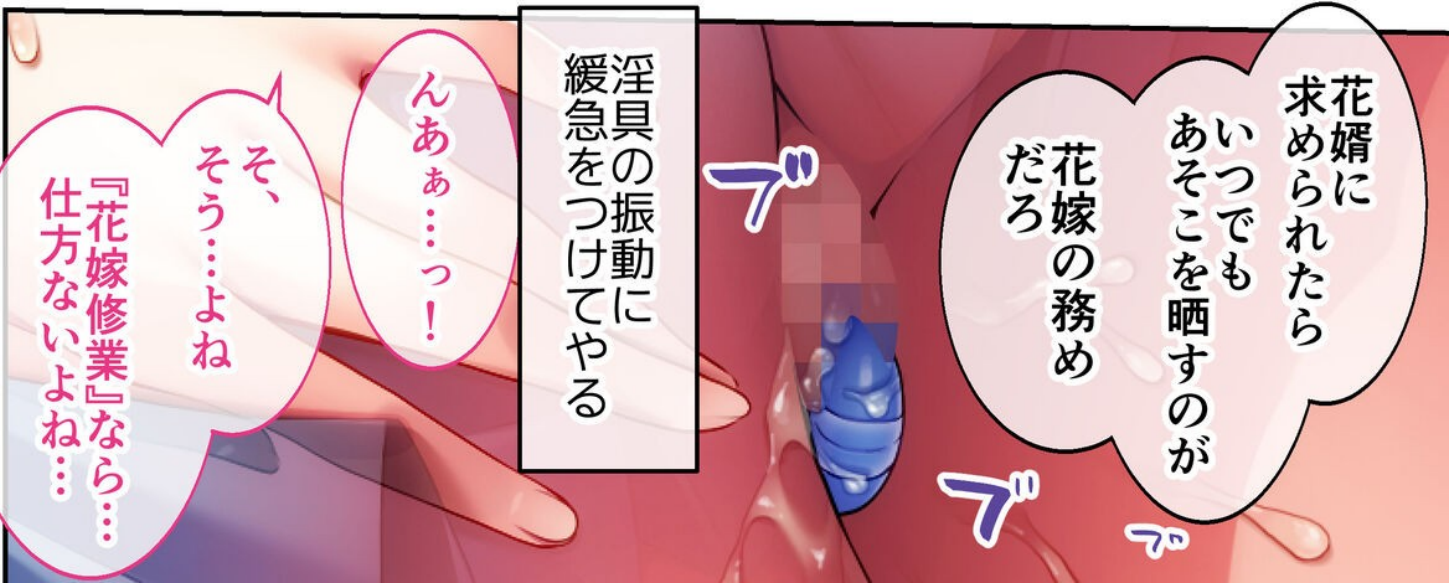
ブ



スカートを
まくるんだ

お兄ちゃんの…
いじわる…

七音は潤んだ瞳で
切なげに
俺を見つめてきた



花嫁に
求められたら

いつでも
あそこを晒すのが

花嫁の務め
だろ

淫具の振動に
緩急をつけてやる

んああ…っ！

そ、
そう…よね

『花嫁修業』なら…
仕方ないよね…

ブ

ブ

ブ

これで…
いいの…？

しっかりと
確認するため
秘所の淫具を
取り外す

そ、そんなに
近くで…
見ないでよ…

七音は顔から
火が出そうなほど
赤面している

うう……

近くで見ないと
検査にならないだろ

……想像より
もっと大変なこと
になっているじゃないか

ちゃんと指でも
検査しないと

んうう
ううううっ…!!

ズッ

ヌ
キュ

うーん、
こりや
大洪水だな

あ、あんなに
しつこく悪戯
されたんだから…

……
当然でしょ

本当に…
それだけか？



まるで
愛撫をねだる
かのように――

ふくらみきつて
包皮から剥け出した陰●は、
ひくひくと脈動している



俺に見られて…

興奮
してたんじゃないのか？

んはあ…
あれも…
ある、かも…



んんっ…
んんっ…

指使いをさらに
激しくしてやる



お兄ちゃん
に…

いやらしい目で
覗かれて…

変な気分にな
っちゃった
かも…



あそこの
奥にまで…
指が…



待ちに待った
昼休み

ど、
どう……
かな……?

はい

あーん……



うん……
すごく、
おいしい

味も彩りも
栄養バランスも
全てが
ハイレベルだ

よかった……

七音の顔は、
ほんのりと
紅潮している



えっち抜きの
普通の
いちやいちゃも
……良い!!

……嬉しいことは
ないっ!

ほら、
もう一口

おいしい……

七音に
食べさせてもらっ
こと

より一層おいしく
感じられる



こ、こんな
ところであ...

こんな
格好で...

こんなところで、
こんな格好でするから
お仕置きになるんだろ

お兄ちゃん
のが...

あああつ

そ、そんな
恥ずかしい
こと...

聞かないでえ
...

七音の口は
答えを拒んだが

息づく下の唇は
正解を
露わにしていた

あひっ

ひいい...

あああ...

あそこ
に...

ロ●ターや
指よりも

んっ...
んはあ...

本物の方が
いいだろ?

ずっと、
これが、

欲しかった
んだろ？

ズボンにシミが
できそうなほど

大量の蜜汁が
溢れ返っている

んあ…っ

グ
ッ

グ
ッ

あんっ…
あんっ…

はああ…っ

そっ
そう

に…

決まってる
でしょ…

グ
ッ

グ
ッ

電車や階段では
満足できなかった
俺のモノが

待ちに待った
快楽を貪り、

びくびくと
のたうちまわ
っていた

んんう

お兄
ちゃんの
がっ…

良すぎてっ

はあああ…
あああ…

電車
ではっ

我慢できた
けど…

声…
出ちゃい
そう…

俺も、
ずっと

我慢してた
から…ッ

んう…っ

ああ…
んっ…!



七音が
二度の絶頂に
達した一方で、

……うう……

お兄ちゃんの
……いい……

くっ……
うっ……
……んああ……
……あんっ……

あああ……
んあああ……



俺は朝から
二度もおいた
食らって預けを

はあああ……
ああんっ……

男の象徴には

溶岩のごとく
煮えたぎった牡欲が
溜まっている

わたし……
もう……
んあ……

いくっ……
いきそうっ……
お兄ちゃん
ので……

俺もだ……ッ

我慢の限界はとうに超えていた

あっ…
んはああ…

お兄ちゃんの…
あそこの奥に…

溜め込んだ
濁流が

どくどくと
注がれ続ける

んはあああ
あああ…!!

七音っ…!

ドゥ
ズ

ドク
ク

ビ
ク

ビ
ク



朝から…
三回も…
いかされた…
ちやつた…

うれしい…



はああ!?

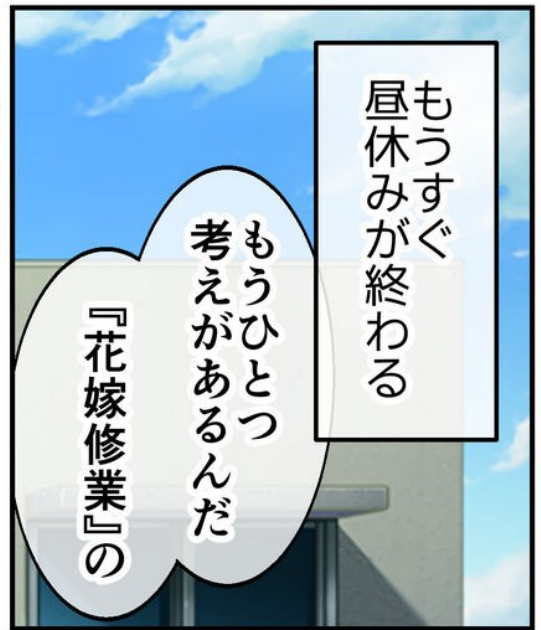
無理無理
むりむりっ!

絶対
ツツ対に
無理
いつ!!

拒否されて
当然の内容だ
しかし、
俺は食い下がる

「花嫁修業」を
完成させるために
これは絶対に
必要なんだよ…!

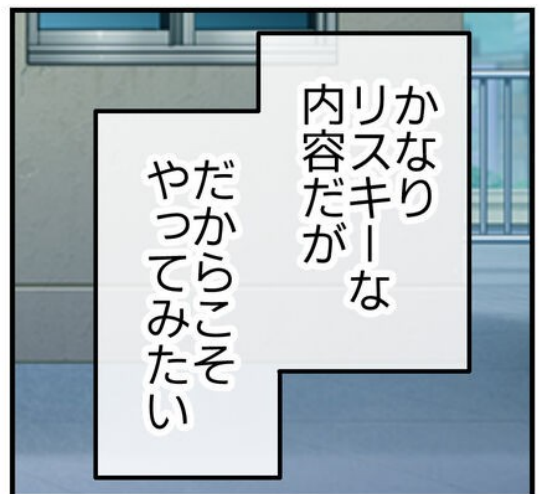
そっ…そっ…
そんなこと…っ



もうすぐ
昼休みが終わる

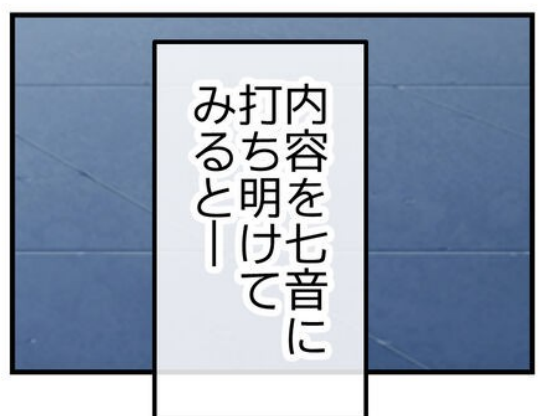
もうひとつ
考えがあるんだ

『花嫁修業』の



かなり
リスキーな
内容だが

だからこそ
やってみたい



内容を七音に
打ち明けて
みるとー

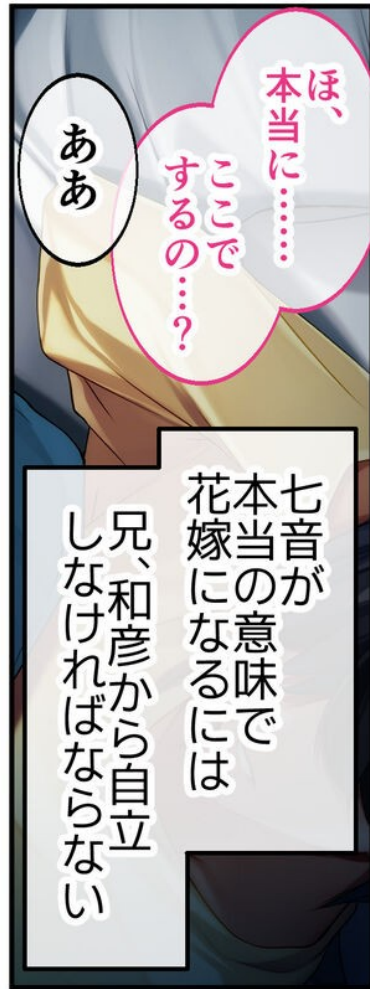


和彦の前で
することが

最大の修業に
なるんだよ

ううう...

そこでこの
『花嫁修業』だ



ああ

ほ、
本当に...
ここで
するの...?

七音が
本当の意味で
花嫁になるには
兄、和彦から自立
しなければならぬ



深夜—

俺と
七音は

和彦の部屋に
忍び込んでいた



自慰に
ふけていた

んっ...
んっ...
んっ...

んっ

ふう...っ

んっ



んっ...

眠る和彦の
すぐとなりで



んあ...

七音は
立つたまま

んう...っ

左手を乳房へ、
右手を股間へ—

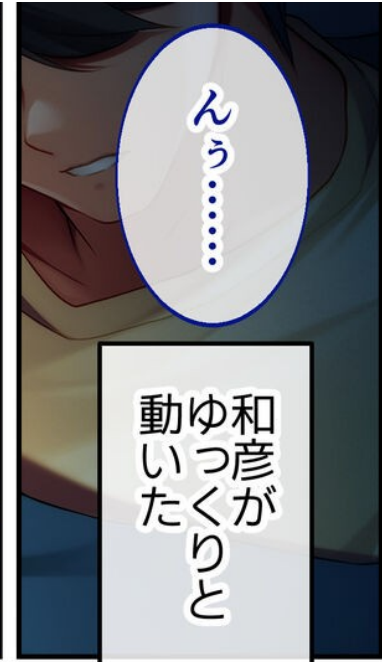
んっ





!!

まずいつ!!
起きたか...!?



んう……

和彦が
ゆつくりと
動いた



汁の音で和彦が
起きちゃうかもな

グ
チョ

んう……
んんっ……

そっ、
そんな
音を
立てて
ない
から……

ヌ
チュ



……んう……
七音え……

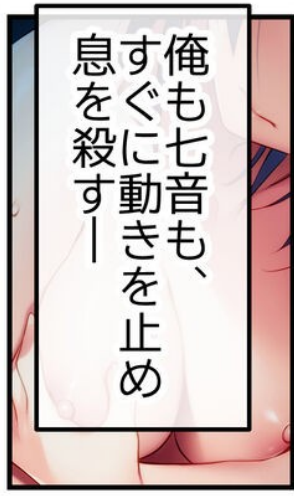
……スウ……



んう……



数秒間か、
数分間か、
それとも――



俺も七音も、
すぐに動きを止め
息を殺す――



……こんな
状況で……

オ●ニー
して……

七音は軽く
放心していた

……わたし……
いつちやった……

お兄ちゃん
の前で……

……いつち
やった……



和彦は
再び息を
立て始めた

……ほっ

……お、脅かし
やがって……

……よし、
ここからが
本番だ

ズ
ズ

ううう…っ
んくうう…!!

う、
うそっ

こんな
ところで
……っ

和彦が
寝入っ
ているの
を
確認し
た俺は

七音を
後ろか
ら抱き
上げ
右脚を
抱え—

お兄ちゃん
の前で
なんて

恥ずか
しい…!!

恥ずかしい
……けど、
気持ち良
いんだ
らう?

別に……
お兄ちゃん
の前だから

感じてる
って
わけじゃ……

んううっ

ズッ
ズッ

俺は
すごく
良いよ

和彦の
前で
七音を
抱けて

……っ
!!

ズ
ズ



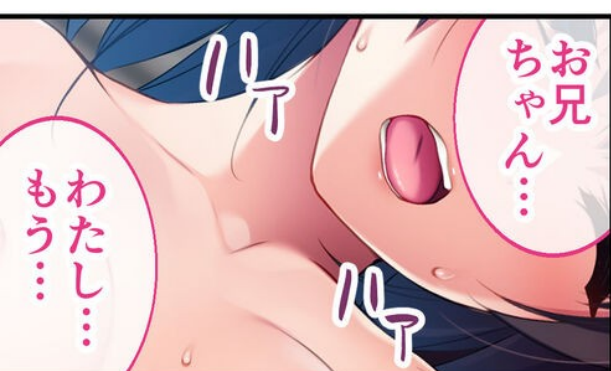
すぐ横では
和彦が眠っていた

はあああ
あつ……



和彦……
おまえは
良い友人だが

七音が
可愛すぎるのが
いけないんだよ



お兄
ちゃん……

わたし……
もう……



あそこも
すごい濡れよう
じゃないか

このくらい
……普通よ

お●ニーした
ばかりだし
花嫁だったら、
花婿相手なら……

フキョ
フキョ



いきそう
……っ
お兄ちゃん
の前で……
いっちゃんい
そう……!!

いけよ

七音はもう
一人前の、

花嫁に
ふさわしい女
だってことを

見せつけて
やれ……!!

ズッ
ズッ
ズッ

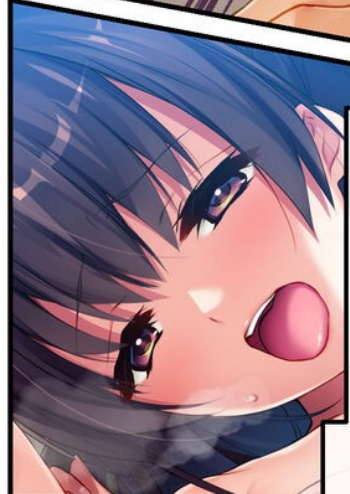
んはああ
ああああ……!!

はあんあ
あっ……
ああ……

ジュル

ううう……
くっ……

んっ……
んんう……



俺硬出して
のいままの
モノは、

本格的な
抜き差しを
再開した

これで……
また一歩、
かなり花嫁に
近づいたわね……

ジュルルッ

お兄ちゃん
のが……

奥に……
たくさん……

出してもらっ
ちゃった……

そう言う七音も、
兄の前での二回目を
拒もうとはしなかつた

また……
するの……?

あっ……
あんっ……

『花嫁修業』を
始めてから
数ヶ月が過ぎた

今もまさに、

俺と七音は
『花嫁修業』の
真っ最中だ

そこに、
和彦から電話が
かかってきた

もしもし

お兄ちゃん…
どうしたの？

今？

どこって
別に…

俺の家なら
いるんだから
安心しろ

こんな光景
見たら

卒倒する
だろうな

はあっ…

ちよつと…
風邪気味かも

んっ…

大丈夫…っ
だから…

そんなに
ひどい風邪
じゃ…

ない…
から…っ

ク
チ



ちよつと
わかんない…

…?
帰る時間



…夜には
帰るから…

『何で?』
って…

ハア



適当に
済ませて…

あ、…夕飯、
作れないから
しれないから

ズッ



もう…
お兄ちゃん
ったら…

心配性
なんだから

んはあ…
んっ…

んんう…

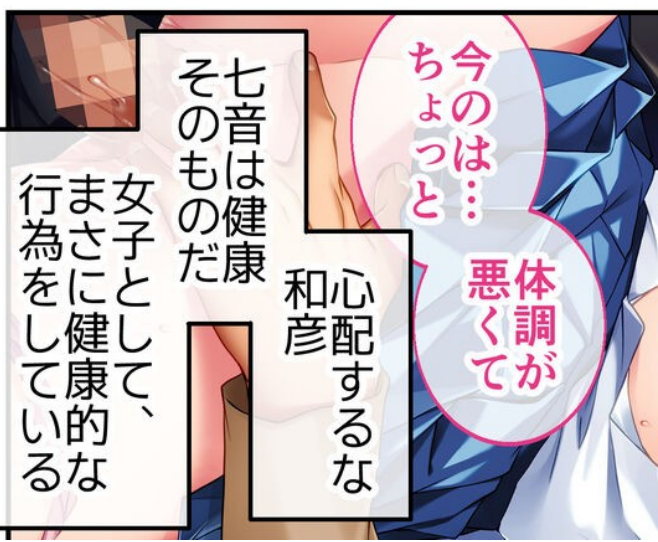
…ふうう…

ズッ

ズッ

私だって…

もう子どもじゃ
ないんだから…



七音は健康
そのものだ

女子として、
まさに健康的な
行為をしている

心配するな
和彦

今のは…
ちよつと

体調が
悪くて

兄の世話より、
花婿の性欲に
応えるべきだよな

はあああ…
…ああつ!

んっ!

それでこそ
花嫁だ



そ

それ
じゃっ
切るね…っ

いそがしい
から…



んっ…
んあぁあぁ…

はぁあぁ…
あぁあぁ…

あぁ…

んっ…

んはぁあぁ…
んんうううう…!!

ブツ
グ
チュ

七音はスマホを
手にしたまま、
うっとりとした
顔で浸っている



なんでも
ない…
ちよつと
喉の調子が…

ハッ

通話中の七音に
俺は更に
追撃をかける

…んんツ!!

ズ
ズ
ズ
ズ

と、
とにかく…
もう切るね

はああ…っ

んんっ…
んんうう…!

遅帰りは
つ遅くなる

伝えた
から…

俺は七音を
抱きしめ、改めて
腰を動かす始めた

だから…
もう一回…



借り物か…
汚したらなら
まずいな

…中に出す
しかないか

ちよつと!



そしてー

俺と七音は
恋人として
付き合い始めた

借りて
来ちゃった

家庭科部の
友達から…

もちろん、
結婚を前提に



もお…っ
んはああああ…
あああ…

お兄ちゃん
いっぱい、
出すから、

垂れちゃう
かもしれない
でしょ!

少しくらいよ
わからないよ
どっちも
白なんだから





あつ……
あああ……

うれしい……
借りてきて
よかった……

ハイ



んああ……

お兄ちゃん……

んっ……
ああんっ!



お兄ちゃん
いつもより……
すごい……

そのドレス、
よく
似合ってるぞ

七音の
ウェディング
ドレス姿が
あんまり綺麗で

つい熱が
入っちゃう
んだよ



本当に
花嫁になっ
たみたいで……

私も……
ドレスを
着てると

……身体が
熱くて……

七音をこんな
えつちな娘に
しちゃつて

『未来の花婿に
申し訳ない』

と思つて
いたけど……

俺が貰うなら
問題ないよな...?

はああああ
あああああ
あつ!

わたし.....
もう.....
いくつ!
いつちやうつ

ビク

ビク

七音...

...まだ、
できるだろ?

うん...
うん...

ト
ト

ト
ト



私も……ドレス姿の自分を
見てると……



あっ……
はあああ……

ああん……

うれしい……

お兄ちゃんに
そう言っ
てもらえて……

ドレス姿の七音、
きれいだよ



ずいともより
ずいとも……

あああ……
んあああ……

『鏡の前で
花嫁衣装を着た姿を
一緒に楽しみたい』
最初は恥ずかしいと
抵抗した七音も、
楽しんでくれている

ブッ

グ
チュ
グ
チュ



こんな姿……
見せられないっ

それは……
だめえ……

俺と
繋がった
七音を

和彦にも
見せてやりたいな
ウェディング
ドレスを着た
七音の姿を

ブーン

ブーン



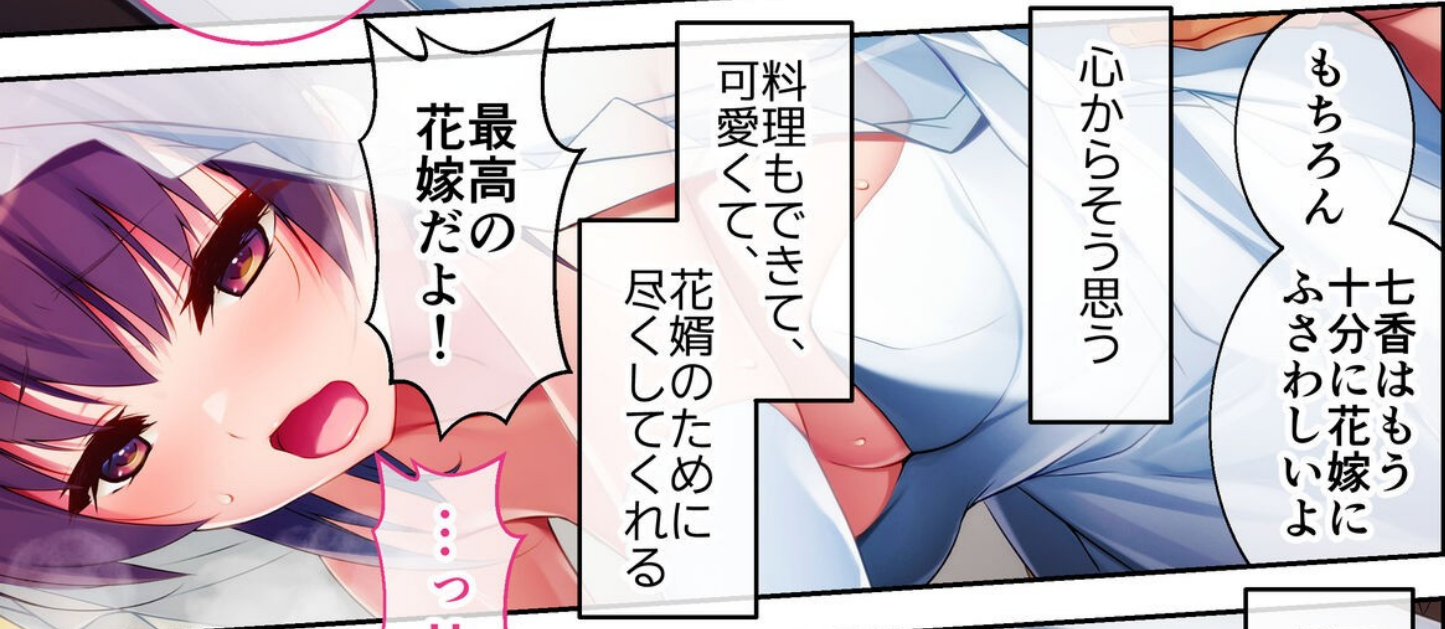
あんっ…

はあああ…

ねえ……
お兄ちゃん

私……
ちゃんと
花嫁に
近づいて
るかな…

花嫁に
ふさわ
しい女
子にな
ってい
るかな
?…



もちろん
七香はもう
十分に花嫁
にふさわ
しいよ

心からそう
思う

料理もでき
て、可愛
くて、

花婿のため
に尽くし
てくれる

最高の
花嫁だよ!

……っ!!



愛おしさと
衝動にまか
せて、俺
は一心不乱
に腰を振
る

お兄ちゃん
にそう言
ってもら
えて…

うれしい
っ……!!

すごく
嬉しい…!!

また…
いきそう…

俺もだ…!

ひんああ…
ひいつ…

プア

プア



大人の禁SEXY絵本

©アンモライト